

# 自殺者 過去最悪のペース

8月は「孫待ちの月」とも呼ぶと、高知新聞にあった。慣れない標準語に戸惑いながら、孫の成長に目を細める老親の姿。しかし、9月になると、状況は一変する。さしずめ「孫去り月」か、帰省後のフォローが大事だ。

# ひぐらしの鳴く季節 もう一度田舎に 帰ろうか

震災以降、全国で自殺者と統計には出ないという、援護協会会長の上原寛光氏が急増している。

4〜7月の自殺者は、前年と比べて7.3%増の1万1823人（警察庁調べ）。このペースでいくと、過去最悪だった03年の3万4422人に迫る勢いだ。

もっとも、内閣府による、地震や原発事故を直接の原因とする自殺者は、6月が16人、7月は11人だけ。「震災以降の暗いイメージ」や先行き不安が影響しているかもしれない。（自殺対策推進室）と、言が、遺書などの明確な証拠がない

8月は、孫待ちの月とも呼ばれ、山盛りのごちそうで、孫の来訪を待ち望んでいるながら、あと何



帰ろうかなあ

と統計には出ないという、援護協会会長の上原寛光氏はこう分析する。

大きな被害が出た岩手や宮城、震災後、車にベツトボトルの水を詰め込んだ家族が家にやってきました。一時的ではあっても、昭和の大家族が復活したのです。田舎でひっそり暮らしていた老親にとって、逆の理由を国介護者支たかもしれません。

## 81%が「帰省してよかった」と回答

8月は、孫待ちの月とも呼ばれ、山盛りのごちそうで、孫の来訪を待ち望んでいるながら、あと何

回、親旅行のまねごとができるものかと、指を折った人もいるはずだ。

東日本高速道路のアンケートでは、この夏に帰省した人の81%が「帰ってよかった」と回答している。

## お盆がにぎやかだっただけに……

お参りや灯籠流しをやった、お参りの味に舌鼓を打つ、特々今年には震災で苦労した分、いつものお盆とは違って、家族が出会うありがたきを感じた」とい



う声が多かつたという。しかし、9月の声を聞いた老親たちは寂寥と無縁の元の生活に戻っている。お盆の帰省時がにぎやかだった分、余計にトロな気分になつてくるだろう。

しかも、憂鬱な気分は後からやってくる。阪神・淡路大震災の際は、半年くらい経過後からパニック障害やPTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩まされる人が多かったのだ。

今年については、9月の連休も帰省し方がよさそうだが、東京から岡山山まで家4人で帰るとなれば、往復の新幹線代だけでも10万円以上が飛ぶが、「敬老者の3連休に帰ろう」と計画している人も少なくない。

ただ、足を運ぶだけが親孝行ではありませぬ。私はよく、頻りに電話して「ささい」と言っていますが、もっといいのは、田舎両親から電話をかけてきたら、さっさと帰ってやるのは、簡単です。私は毎日、新潟の親戚に文房の干成もなを送りまして、送料のりが高いくらいです。

電話口からその声が聞けるはずだ。

原氏